

# NEWSLETTER

## CONTENTS

■ トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・ P1-3

- ・ 災害拠点病院としての浜松医科大学医学部附属病院の立場
- ・ 医学への光とイメージの更なる活用を目指す  
「メディカルフォトニクス研究センター」
- ・ 企業のモノづくりと医療を融合させる  
「産学官共同研究センター」

■ 新任職員の紹介・・・・・・・・・・・・ P4-8

■ 海の向こうで・・・・・・・・・・・・ P9-11

■ 大学ニュース・・・・・・・・・・・・ P12-26

■ 寄稿・・・・・・・・・・・・ P27-28

■ 卒業生は今・・・・・・・・・・・・ P29-30

## 災害拠点病院としての浜松医科大学医学部附属病院の立場

### 副院長 小林 利彦

2011年3月11日の東日本大震災から既に7か月近くが経とうとするのに、未だ復興には程遠い地域が少なくありません。「未曾有(みぞう)」とはまさに今回の震災被害を指しているのですが、津波や原発(放射能)による二次被害を含め、静岡県民にとって決して他人ごとではない問題です。

静岡県は東西150kmと横に長く、北部に位置する山脈からは大きな河川が海に流れ込み、過去の大災害時に交通路が途絶したことも少なくありません。また、牧の原や由比のように、地層の変化により山崩れや地滑りが起こりやすい土地もあり、関東大震災の際には「由比の地滑り」で3週間近く関東と関西が切り離されたことは有名です。現在の東名高速道路は1960年頃に建設されていますが、不安定な地盤を通っていることから、第二東名を推奨する根拠にもなったようです。この種の地理的ハンデを背負っているが故に、静岡県の建物の耐震化は他の都道府県より進んでいます。しかし、上記の理由で、大災害時に中枢機能を有すべき県庁(静岡市)と浜松市が密な連携体制を取れない可能性も十分に考えられます。

1995年の神戸・淡路大震災後、全国に「災害拠点病院」が設置されました。災害拠点病院の条件として、耐震性、自家発電能力、水の確保、医薬品・医療材料等の備蓄、ヘリコプターの離着陸場所の確保などが上げられます。2011年現在、全国で609施設が指定を受けていますが、静岡県で

は19施設、県西部には6施設(浜松医大附属病院、浜松医療センター、聖隷三方原病院、磐田市立病院、袋井市民病院、掛川市立病院)あります。

浜松医科大学医学部附属病院において、2009年に新設された入院病棟は免震構造であり、現在、改修工事中の外来病棟は1年半後に完全な耐震構造となります。また、これまでは自家発電能力がやや弱かったのですが、今回、新規発電機を増設し発電能力の強化を図っています。そのほかにも井戸水の上水化、医薬品・医療材料・食料等の備蓄量の見直しなども検討されています。

私自身、当院を災害拠点病院として見た場合、一番の心配はヒトの問題です。概して、大学病院ということもあり、専門診療や高度医療、研究領域に興味を抱いている医師が多く、救急・災害医療に特化した訓練を受けている職員は少ない傾向にあります。そもそも、災害と医療・医学を結びつけるといった問題意識は弱い感があります。とはいえ、今回の大震災ならびに二次被害等を振り返ると、地盤が固く、高台に位置し、原発から離れている病院の存在は重要です。そして何よりも、医療従事者が圧倒的に多いことを考えると、静岡県、特に西部地域における浜松医科大学医学部附属病院の役割は極めて大と考えます。今後、周辺の医療機関および行政との連携体制をさらに強め、地域住民も交えた防災訓練やシミュレーション等の検討が急務の課題でしょう。



陸前高田病院(右上隅:同病院の1階外来受付)

## 医学への光とイメージングの更なる活用を目指す 「メディカルフォトニクス研究センター」

メディカルフォトニクス研究センター長 副学長(研究・社会貢献担当) **蓑島 伸生**

今年4月1日、本学に新しい研究組織「メディカルフォトニクス研究センター」(以下、MPRセンター)が設置されました。MPRセンターは、平成3年4月から20年間存続した光量子医学研究センター(光量子)と平成19年1月から4年間設置された分子イメージング先端研究センター(分イメ)が統合・改組されて誕生したものです。旧2センターには、それぞれ4分野・部門と3部門がありましたが、MPRセンターでは3部門(基盤光医学、応用光医学、生体光医学)に整理されました。その中に、6研究室[光イメージング、システム分子解剖学、光ゲノム医学、分子病態イメージング、医学分光応用寄附(浜ホト)、生体機能イメージング]が所属しています。建物は旧光量子棟がそのままMPRセンター棟と名前を変えました。一部の研究室は研究棟に分散していますが、部屋の増設・拡充と内装の整備が大に行われているところです。

MPRセンターという名称の萌芽は実は23年前から本学にありました。平成元年に浜松ホトニクス社により寄附講座が設置されたのですが、その名称が「メディカルホトニクス講座」だったのです。光量子は平成3年4月に同講座を核として国が設置しました。「フォ」と「ホ」の違いはありますが、浜松が擁する世界ブランドの同社は、ほぼ四半世紀前から現在に至るまで一貫して本学に寄附講座を設置いただき、その開始時点から現在のMPRセンターの姿を予見しておられたとも言えます。

この四半世紀で光の医学応用には格段の進歩がありました。その最たるものの一つに、イメージング法の発展が挙げられます。本学に分イメが設置されたのはイメージング法の発展に資する人材育成のためでした。疾患や健康状態を

表す様々な情報が、2次元、3次元の実体図(イメージ)として得られるようになってきたことで、診断・治療は大きく進歩したと同時に、客観性と安全性、安心感が増したことは間違いありません。

今後のMPRセンターは、今まで以上に光の医学応用を目指していかなければなりません。それには、「依然として発展し続けるイメージング基礎研究の世界に浜松から貢献すること」が肝要ですが、同時に「ものづくり企業との強い連携による実用化・製品化を見据えた応用研究を貫徹すること」が極めて重要です。本学には、応用・実用化研究のために、MPRセンターと同時に、産学官共同研究センター(通称コラボセンター)が設置されました。今後は、この2センターが局面に応じて効率的に稼働していかなければなりません。しかし、実用化のために近視眼的になり過ぎることは中長期の将来の発展を阻害します。今後の光の医学への活用に関する基礎研究では、リアルタイム性の追求、生体イメージングの追求、より広い波長領域の光(電磁波)の活用、光以外の方法によるイメージング法の更なる開拓、光やイメージングの活用を下支えするオミックス研究、等も重要と考えています。

潤沢に外部資金を導入して、基礎研究と実用化研究がほどよく共存した浜松医大の研究を実現するために、MPRセンターは尽力する所存ですので、皆様のご協力、ご指導を切にお願いする次第です。



メディカルフォトニクス研究センター



## 企業のモノづくりと医療を融合させる「産学官共同研究センター」

産学官共同研究センター長 山本 清二

今年4月から、サイクロトン棟、PET-CT棟の2棟からなる「産学官共同研究センター」が正式にオープンしました。この施設は浜松医科大学の経費を投じて建設されたもので、「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」の中核施設として、地域の医工（医学と工学）連携・産学官（産業界と大学が公的機関の支援を受けた）連携事業の重要な役割を果たす学外にも開かれた研究センターです。

### 「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」とは

JST（日本科学技術振興機構）は、各都道府県に地域の産学官共同研究拠点を整備して、地域の特性を生かした産学官共同研究を推進するとともに、研究成果の地域企業への展開を図るために、平成21年度に「産学官共同研究拠点整備事業」を公募しました。この事業に、浜松医科大学を中心に静岡県から産学官7団体（浜松商工会議所、財団法人浜松地域テクノポリス推進機構、浜松医科大学、静岡大学、光産業創成大学院大学、静岡県、浜松市）が「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業」を提案し、平成21年12月に全国28地域の一つとして採択されました。この事業によりJSTの経費で、臨床研究用PET-CT装置、サイクロトン、GMP対応ホットラボ／基礎開発用ホットラボ（治験薬の合成が可能なPET用トレーサ合成装置）等イメージングに必要な装置が設置され、今年4月からの正式運用を開始するために、拠点の中核施設である「産学官共同研究

センター」を浜松医大の経費を投じて新たに建設することになったものです。

### ものづくり地域「はままつ」の特徴を生かす

トヨタ、ホンダ、ヤマハ、スズキの自動車・オートバイ産業の創始者は浜松市を中心とするこの地域の出身で、関連する多くの「ものづくり企業」が集まっています。またヤマハ（日本楽器）、河合の楽器の街でもあり、今では浜松ホトニクスの名前は国際的に知られ、光と電子の街として世界的ブランドを誇っています。この地域には、世界に誇る技術力、産業開発力があり、加えて新しいものを取り入れて何か作ってやろうという気質があります。このものづくり地域「浜松」の特徴と「医療・医学」のシーズ・ニーズとの融合により、連鎖的・継続的に地域にメディカルイノベーションを創出することができます。

### 最後にセンター長としてお願いしたいことは

「産学官共同研究センター」の英語表記は「Collaboration Center for Medical Innovation」で、「コラボセンター」と呼んでいただきたいと思います。日常業務の中で「この不便さは何とかならないか」、「こんなものができたらいいのに」と思った時には、迷わずコラボセンターに来てください。その答えを具体化する窓口としての機能を果たすつもりです。



産学官共同研究センター





## まだまだ、これから

総合人間科学講座 教授 **谷 重喜**

平成23年5月1日付で総合人間科学講座(情報医学)教授に昇任されました谷重喜です。私は、平成元年に浜松医大附属病院の助手に着任以来約23年になります。着任前の昭和62年頃から附属病院の電算化に関わっていましたので、浜松医大には25年超居ることになります。コンピュータを扱っているため、工学部や情報学部の出身と思われる方々が大半でした。しかし、元々の専門は東洋医学が専門でした。漢方薬の原料である生薬(薬草)の有効成分分析や薬効薬理の研究です。一つの薬草に含まれている成分が、数十から数百の化合物が含まれることは珍しくありません。当時の液体クロマトグラフやガスクロマトグラフ装置の分離カラムは自作しなければならず、また、質量分析装置に至っては低分子の分離能力しかなく、これもやはり自作を余儀なくされました。こういった機器分析装置の製作とコンピュータ解析への応用が、臨床検査装置の自動化システム構築に大きく貢献し、本学附属病院の臨床検査装置の機械化と分析速度の向上に進展しました。これと並行して、附属病院での医療情報の電子的伝達にも取り組んでいました。処方箋のコンピュータ端末からの入力や各種検査報告書の閲覧などです。コンピュータ端末にて結果を閲覧できるため、当時は紙による検査結果報告が恒常的であった病院からの見学者が連日のように来学するような状況でした。オーダエントリシステム普及の今後は、診療録自身の電子化に向けて進んでゆくとします。私自身は、大学全体の情報セキュリティや研究教育環境の情報化のさらなる基盤整備に、最高情報責任者(CIO)補佐、そして情報処理センター長としても貢献して行きたいと思っております。



## やっと東海地方に慣れました

法医学講座 教授 **渡部 加奈子**

皆様こんにちは。私は平成6年に本学を卒業した15期生の渡部加奈子です。平成23年5月1日を以って、中村達学長より教授(法医学講座)の辞令を頂きました。故郷は神戸、2浪して浜松医大に入学、以来23年になります。最近やっと東海地方の文化や雰囲気、気質に慣れてきた様な気がします。

法医学講座に入局後、司法解剖をする傍ら、血液や尿など脂や蛋白成分が多い人体成分中の薬毒物微量分析法の開発をテーマとして研究してきました。分析対象物は主に揮発性有機化合物で、これらの超高感度分析法を確立するためGC/MS機器に自ら改良を加え一連の研究を展開して参りました。

日本では、平成16年頃から司法解剖が急増し、過労で一時期は休職もしました。しかし、前学長寺尾先生はじめ、多くの先生方、学生さん達に支えられ、身体を治して大学に戻って参りました。最近、若い医局員が増え、司法解剖を執刀する医師が5人になり、最新鋭のGC/MSやLC/MS機器も購入し、教室の設備を充実させました。

この17年を振り返り、一番思うのは、多くの方々の支え無ければ現在の私は絶対に存在しない事です。この場をお借りして、皆様に心から感謝と御礼を申し上げます。

現在も、日本では司法解剖と法中毒学分析の技術を持つ医師は少なく、私と先輩2名です。その技術を後輩に伝え、静岡県全域の司法解剖の統括、働き易い職場作り、志を持つ研究者への研究指導が私の任務であると自覚しています。現在、当講座では年間約200体の司法解剖と、県内の出張検死を約150体手がけています。今後とも、皆様の御指導と御鞭撻の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 浜松医科大学小児科に赴任して

### 小児科学講座 教授 緒方 勤

平成23年5月16日付けで、小児科に赴任した緒方勤です。大学勤務の経験は、フレッシュマンのときの9カ月間だけしかなく、実質的に初めての大学勤務となります。このため、日々を新鮮な気持ちで、過ごしています。

浜松医科大学は、のどかな雰囲気がたぐい、私が生まれた瀬戸内海の小島を彷彿とさせてくれます。浜松では、学生時代に戻った感じで過ごしてみようと思ひ、テレビも車もない生活を送っています(さすがにクーラーはつけましたし、地震が恐いので、ラジオは持っています)。テレビがないことは、やはり大正解で、これはお薦めです。車がないことにも特に不便さは感じていません(ただし、タクシー代は結構かかります)。医大宿舎に住んでいるため、通勤時間が5分くらいしかないことも有り難いです。ただ、もし東海地震がくるなら病院で働いているときにきてほしいと願っています。

私は、小児内分泌学や臨床・分子遺伝学を主たる専門領域としております。特に、成長障害、性分化・性成熟、先天奇形症候群を主たる対象として、それらを単一遺伝子疾患、多因子疾患、インプリンティング・エピジェネティクス疾患の観点から研究し、その成果を臨床に還元したいと考えています。

また、今後の小児科においては、小児科疾患 Pediatricsにおける診断・治療の重要性は変わりませんが、これに加えて、小児を取り巻く環境の変化を反映して小児保健 Child Healthが重要になってくると思われれます。この小児保健に関連する問題の予防、診断、治療にも積極的に関わりたいと考えています。

これから宜しくお願ひ致します。



## 解剖学講座の改編と 同講座神経機能学分野准教授着任に当たって

### 解剖学講座(神経機能学分野) 准教授 植木 孝俊

この4月の組織改編に伴い旧解剖学講座より改称された解剖学講座(神経機能学分野)の准教授に8月1日をもって着任致しました。

平成12年9月に初めて浜松に参り助手として着任しました解剖学第一講座は、その後私が本学を離れておりました間に解剖学講座に改編され、帰学後のこの春に再度の改組を受けて解剖学講座(神経機能学分野)として再スタートを切りました。本分野は、医学部教育においては、主に系統解剖学と神経解剖学に携わっております。

医学研究については、平成15年に米国立衛生研究所(NIH)に移りましてから後、今日まで、筋萎縮性側索硬化症(ALS)やアルツハイマー病等の神経変性疾患に掛かる病態生理の解明に当たる他、欧州の製薬企業と、それら疾患の病原タンパク質の脳内動態を、リアルタイムで解析するための早期診断薬の開発を行っております。NIHは医学生物学領域の公的研究費を研究者に配分する米国で唯一の機関でもあり、全米から著名な医師、研究者が訪れていましたので、Ted Dawson先生やJeffrey Rothstein先生等の神経科学で活躍されている先生方とお会いし、直接にお話を伺う機会に恵まれたのは幸運でした。NIHには、その後、神経内科医を主とする多くの先生方を博士研究員としてお迎えし、また、平成19年の帰学後には、米国で縁のあった先生方からお声掛けをいただき、文部科学省の新学術領域研究等の大型研究事業で一緒する機会等を得ています。

今後引き続き精神・神経疾患の早期診断・治療法の創出のための基礎的研究に邁進して参りたいと思ひますので、ご指導の程をよろしくお願ひ致します。



## 着任のご挨拶と自己紹介 ～近くて遠い浜松～

解剖学講座(細胞生物学分野) 准教授 **池上 浩司**

平成23年8月1日付で解剖学講座(細胞生物学分野)准教授を拝命いたしました「いけがみ こうじ」と申します。よろしくお願いいたします。

出身は隣町の愛知県豊橋市です。地元の時習館高校を卒業後、学部から大学院まで9年間、北海道で暮らしていました。理学博士の学位取得後、東京にあった三菱化学生命科学研究所で研究員として4年間勤務し、平成20年8月に浜松医大に特任助教として赴任してきました。浜松生活も4年目に突入しました。

さて、実家は隣町ですが、浜松医大に赴任するまで浜松に足を運んだのは片手で数えるほどしかありませんでした。実家の裏山からはアクシティが見えるほど近いというのに。湖西市、新居町、三ヶ日町には頻繁に訪れていましたから、浜名湖の存在が距離以上の遠さを生み出していたのかもしれない。また、豊橋を出てから北海道、東京を経て浜松にたどり着くまでに13年かかりましたから、やはり『近くて遠い』場所だったようです。しかし、方言や気候が同じということもあり、今ではすっかり「地元に戻ってきた」という感覚です。

最後に研究の話と抱負を少々。専門は、身体を作っているタンパク質の働きを調節する“スイッチ”の一つ『翻訳後修飾』です。このスイッチの異常(例えば過剰な修飾、あるいは修飾の欠如)で起こる様々な変化を、分子、細胞、個体レベルで、イメージング技術を駆使しながら解析しています。学部学生の解剖学教育、大学院生や留学生の研究指導に力を入れつつ、新たな『修飾異常病』の発見など、医学への貢献を意識しながら研究に取り組んでいきたいと考えています。今後も引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 准教授就任あいさつ

外科学第一講座 准教授 **船井 和仁**

平成23年8月1日付けで浜松医科大学外科学第一講座准教授を拝命致しました。初代吉村敬三教授から鈴木一也前准教授へと受け継がれてきた伝統ある「呼吸器外科」の看板を背負う責任と重圧を痛感しております。

私は1996年浜松医科大学を卒業後、県内の関連施設で外科医としての基礎的なトレーニングを受けた後、2000年から国立がんセンター東病院呼吸器外科レジデントとして呼吸器外科手術の基本手技とoncologyの考え方を学びました。2003年から4年間は大学で、2007年から3年間は浜松医療センターで実地臨床と臨床試験、ポリクリ学生教育に従事し、昨年4月に呼吸器外科科長として大学に戻って参りました。呼吸器外科の中でも特に肺がん診療を中心としたsurgical oncologyを専門としています。

浜松医科大学の呼吸器外科は、以前より大動脈合併切除や癌性胸膜炎に対する拡大手術を売りにしてきました。その伝統を大事に守りながら、完全胸腔鏡下肺葉切除などの低侵襲手術や化学療法、放射線治療とのtrimodality therapyなどにも力を入れています。また、大学での単施設、あるいは関連施設を合わせた多施設での当科主導臨床試験により新しいエビデンスを世界に向けて発信すること、多くの学生や研修医を呼吸器外科医として教育することなど、臨床、研究、教育のバランスを保ちながら更に努力していく所存でございます。若輩者ですが、先生方からのご協力を賜りながら外科学第一講座、そして浜松医科大学のために微力ながら貢献できればと思います。

今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



## 若者が集う研究室を目指して

皮膚科学講座 准教授 **平川 聡史**

2011年10月1日付けで、中村 達学長より准教授を拝命しました。本学と皮膚科学講座の発展を目指し、一つ一つ責務を果たす所存です。宜しく願い申し上げます。

4月、愛媛大学より本学へ赴任しました。皮膚科学講座教授 戸倉新樹先生には、日本研究皮膚科学会が主催する「きさらぎ塾」で初めてお目にかかりました。「きさらぎ塾」は、若手医学研究者を育成するセミナーです。2008年12月、全国から7人の「お兄さん役」が戸倉先生の下に集まり、「きさらぎ塾」の開催に向けて思案しました。そのメンバーの一人として私自身「きさらぎ塾」に関わり、この度は本学皮膚科学研究室の立ち上げに携わるよう声を掛けて戴き、浜松へ赴任致しました。

本学で実現したいことは、充実した学生教育と共に、がんに関わる診療・研究の発展です。学生の皆さんには、「医療の課題に対して積極的に関わる姿勢を身につけてほしい」と考え、実習・講義で対話を心がけています。また、がんに対する取り組みではチーム医療が不可欠です。そこで、皮膚科外来に「化学療法スキンケア外来」を設け、各診療科を支援するシステムを勘案しています。さらに研究では、「がん転移とリンパ管新生」に関する課題に取り組んでいます。新しい分野への取り組みにより若者の知的好奇心を煽り、互いに切磋琢磨する環境を構築できるよう、気持ちを新たに本学で取り組んで参ります。諸先生の御指導を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



## シミュレーション教育との出会い

臨床医学教育学講座 特任准教授 **五十嵐 寛**

平成23年7月1日付けで、臨床医学教育学講座特任准教授を拝命いたしました。

私は昭和63年卒の本学9期生です。本学麻酔科に入局し、静岡県立総合病院などの関連病院勤務を経て、平成17年に麻酔科蘇生科講師、平成20年からは臨床研修センター副センター長を併任しておりました。

浜松医大は1995年にHPS(High fidelity human Patient Simulator)を国内で初めて導入しました。HPSは、NASAの技術を元に開発された人体シミュレータで、様々な病態を再現し、診断・治療のトレーニングを行うことができます。現在初号機は廃棄処分されましたが、2号機と3号機が活躍しております。2台のHPSを稼働させている大学も浜松医大だけです。

平成12年にフロリダ大学でHPSの研修を、また、平成15年にはピッツバーグ大学でDAM(Difficult Airway Management)コースを受講する機会を得ました。メンバーの中の数名がダブっており、意気投合した彼らと平成17年には「日本医学シミュレーション学会」を発足させ、DAMやHPS、CVC(中心静脈穿刺)実践セミナーなどを開催しております。現在はその実績が認められ、「医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”」の実動部隊の一つとして活動しております。

本講座は聖隷福祉事業団からの寄附講座で、大学と市中病院の枠組みを超えた臨床医学教育の研究・開発・実践を目的としております。微力ながら浜松医大、延いては静岡県全体の医学教育の発展に少しでも貢献できればと考えております。どうぞよろしく申し上げます。





## ご挨拶

### 臨床看護学講座 准教授 佐藤 直美

平成23年10月1日付で看護学科臨床看護学講座准教授を拜命いたしました。

今回、ニュースレター原稿執筆のお話をいただき、来し方を振り返るよい機会となりました。

浜松に縁もゆかりもなかった私ですが、こうしてご挨拶をしていることが感慨深く思われます。東京大学医学部保健学科を卒業後、臨床で看護師として働いていた際、大学の先輩である藤井正子先生(元基礎看護学講座教授)、松井和子先生(元臨床看護学講座教授)から臨床看護学講座助手のお話をいただきました。お二人と面識はなかったのですが、東京の大塚駅前で待ち合わせ、(それなりに人混みの中だったのですが)なぜかその方たちだとわかり、楽しくお話を伺ったのが懐かしく思い出されます。あの1本の電話がなければ現在の私はなく、この場を借りて、お二人に深く感謝申し上げます。

平成9年8月に着任し途中3回の産休・育休を経て(さすがに4回目は予定ありません...)今に至ります。最初は、それこそ右も左もわからず、ただ与えられたことをやっていく日々でした。看護師としての経験年数が浅かった私は、こちらでの教育・研究を通して看護・医療を深く学ぶ機会を与えられ、育てていただいたと思っております。現在看護学科が置かれた状況には正直なところ厳しいものがありますが、自分なりにできることを一生懸命させていただき、看護学科の、また本学の発展に微力ながら貢献しご恩返しができれば光栄です。どうぞ今後ともご指導・ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

その他、メディカルフォトンクス研究センターの設置に伴い、組織の変更がありました。主な4月1日付け人事異動は、以下のとおりです。

#### 【医学部医学科】

- ◎解剖学講座(細胞生物学分野)  
教授 瀬藤 光利

#### 【メディカルフォトンクス研究センター】

センター長(兼) 教授 蓑島 伸生

##### ◎基盤光医学研究部門

- ・光イメージング研究室

教授 寺川 進

准教授 山本 清二

- ・光ゲノム医学研究室

教授 蓑島 伸生

- ・システム分子解剖学研究室

教授(兼) 瀬藤 光利

##### ◎応用光医学研究部門

- ・分子病態イメージング研究室

教授 間賀田 泰寛

教授(兼) 梅村 和夫

教授(兼) 難波 宏樹

准教授 小川 美香子

- ・医学分光応用寄附研究室

特任教授 岡崎 茂俊

##### ◎生体光医学研究部門

- ・生体機能イメージング研究室

教授 尾内 康臣

教授(兼) 阪原 晴海

また、事務局職員の主な4月1日付け人事異動は、以下のとおりです。

#### 【事務局】

次長(総務担当) 島田 健治

次長(教育・国際交流担当) 五十嵐 利光

総務課長 田中 晃人

情報企画室長(兼) 田中 晃人

施設課長 岩佐 智

医事課長 柘植 智司

病院経営支援課長 鈴木 康正

学務課長 栗田 清治

## 南アフリカ共和国ダーバンでの国際助産師連盟(ICM) 3年毎大会への参加から

臨床看護学講座 助産学専攻科 講師 武田 江里子

この6月に、研究発表(示説)と母子保健・助産に関する情報収集のため、南アフリカで開催されたICM3年毎大会に参加してまいりました。

南アフリカ共和国というと、記憶に新しいのは2010年のFIFAワールドカップではないでしょうか。しかし、私の印象は、「CRY FREEDOM 遠い夜明け」というアパルトヘイトを題材とした映画の中の南アフリカでした。アパルトヘイトというのは、白人と非白人を差別的に規定する人種隔離政策のことであり、1991年に廃止されています。白人のガイドさんは、廃止されてからは黒人も白人も平等になっていると話しておりました。確かに外見上の差別はなくなっているようですが、貧困層の94.7%はアフリカ人、黒人の失業率は40%以上という数値から、アパルトヘイトがもたらした差別意識はそう簡単に消えるものではないように感じました。

ICM大会は、3年に一度の世界の助産師の集まりであり、研究発表、実践報告とともに、各国の助産師事情や母子保健の動向等の情報交換の場となっています。今回は90か国から約3,000人の助産師が集まりました。世界では毎年35万人の妊産婦が死亡しています。そのうちの99%は開発途上国であり、その多くがサハラ以南のアフリカです。そのアフリカ大陸でのICMの開催は初めてであり、人種差別のこと、受けられるケアのあまりの違いなど、いろいろと考えさせられました。アフリカ諸国の発表では、AIDSや妊産婦の衛生に

関する取組み、FGM(女性性器切除)、産科フィスチュラ(膣と尿道、直腸との間にできた瘻孔)等に関する内容が聞かれました。先進国とは異なる課題であり、生命に直結する切実な内容ばかりです。

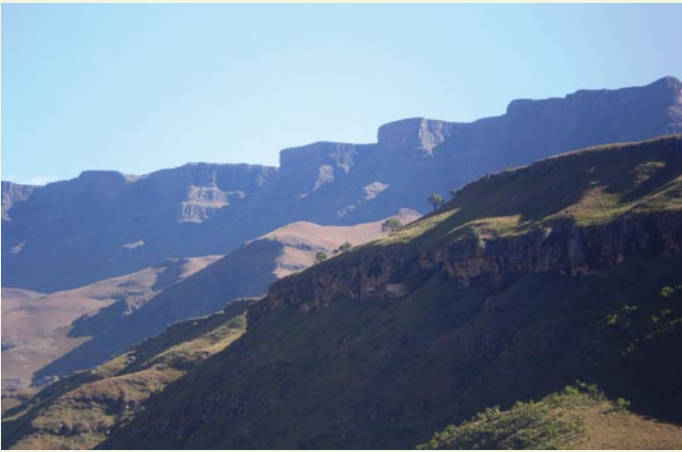
15年前になりますが、私はJICAのボランティアとして3年間南米で活動したことがあります。そのときも感じましたが、教育や医療の届かない場所での出産のリスクの大きさは計り知れません。また文化や価値観の壁も大きいです。今、その場で、その人にとって、何が大切なのかを常に考えていくことが求められます。日本の課題の中には、育児不安や虐待の増加があります。課題は異なっても、母子や家族の安全と幸せを目指すのは同じであり、どの国、どの場においても、状況に応じて臨機応変な考え方ができ、臨機応変に行動できることが大切なのだと思います。

観光で隣国のレソト王国に行きました。様々な境遇の中でも生活できる人間の適応力と強さは、先進国が忘れかけているものかもしれません。

教育の場に身をおいている自分としては、学生には、物事を多方面から捉えられる柔軟性、常に自分で考えられる力、そしてどんな状況にも動じないための知識と技量を身に付けてほしいと思っています。そして世界や人間に興味を持ち、どこでも活動できる優しくたくましい助産師に育てほしいと願っています。



ICM開会式の様子…開会式では90か国の国旗が並び、民族衣装を着た参加者もたくさんいました。



この山の平地がここです。



レント王国: 世界最南の内陸国、平地が一切なく、全土の標高は1400m。今回行ったサニバス(標高2873m)住民45人、一番近い町までは45Kmという山の上です。



## ワルシャワ医科大学での臨床実習

医学科6年 樋口 真一

2011年4月4日より4週間ワルシャワ医科大学に選択ポリクリとして行かせて頂いたので、その御報告をさせていただきます。

ワルシャワ医科大学は2010年から協定校となり、今年初めて選択ポリクリの学生が5名留学してまいりました。ワルシャワ中央駅からトラムで15分に位置するワルシャワ医科大学は、大きな病院を併設した巨大なキャンパスをもつ学校です。その広さゆえ、病院から大学事務局まで20分歩かなくてはなりません。

ワルシャワ医科大学では、日本と同じ6年制をとっており、病院実習は3年生から6年生までの4年間続きます。実習の中で各診療科のテストがあり、学生は実習しながらの勉強に忙しそうでした。大学の関連病院は市内中にあり、科によって実習は関連病院で行われておりました。

ポーランドでは基本的に医療は無料であり、入院から退院まで医療費はかかりません。しかしその分、医療費を安くする工夫(基本的に輸液は生理食塩水をつかう、など)が随所にみられました。私立病院も存在し、別途保険料を払うことにより完全予約制で豪華な個室でゆっくり時間をかけた診察を受ける事ができます。しかし、そんな私立病院でもCTはほとんど持っていないそうです。

私は外科を4週間選択し、毎日手術室に入り助手として手伝いをしてきました。手術そのもののやり方に大きな違いはなかったのですが、手洗いの際、肘を使って消毒液を出すなど、日本との違いに戸惑う場面もありました。しかし、英

語で丁寧な解説をしながら、手術を行っていくドクター達のおかげで、非常に充実した実習であり、先生方の手術に対する誇りに感銘を受ける毎日でありました。肝移植の手術の際は、終了時、「これで助かった。」と強く握手しあう先生方を見て胸が熱くなりました。

ワルシャワ医科大学は、ヨーロッパのみならず世界各地から学生を受け入れており、先生方は海外の学生に教えるという事に慣れていて、すんなりと実習に入っていました。ポーランドで取った医師免許はEU内で使える為、EU各地からの学生が入学し、免許をとり自国に帰り医師として働いています。寮は各地からの学生であふれ、国際色豊かでした。共同キッチンで私たちが料理をしていると隣でイタリアやトルコ、スペインの方の御国料理が始まります。おいしそうな見た目と匂いにつられ一口分けてもらう、そうしてお返しにビールをあげる。そのうちスペインの方がギターを持ち出してきた、パーティーが開催される。実習の緊張がほぐれた寮の夜は、文化交流に大忙しでした。

毎日手術に入り、他国医学生との交流をする中で、言語は違えど、「人を治したい」という気持ちに変わりはないということを実感し、国境を越えた視点から医療を考える事を学びました。

今回の実習を充実したものにするため、ご尽力いただいた小出理事を始め、学務課、関係各位の方々に深くお礼を申し上げたいと思います。



手術室…毎日を過ごした思い出の場所



4週間が終わり、修了証明書をいただきました。

## 一般ニュース(平成23年3月1日～9月30日)

### 3月16日

学位記授与式及び修了証書授与式が行われ、医学部166名(医学科97名、看護学科69名)、助産学専攻科16名、大学院課程博士26名、課程修士15名及び論文博士8名に学位記及び修了証書が授与された。

### 4月5日

入学式が行われ、医学部186名(医学科115名、看護学科61名及び看護学科第3年次(編入学)10名)、助産学専攻科16名、大学院博士課程32名及び修士課程16名が入学した。

### 4月4日～14日

新入生オリエンテーション(ガイダンス、健康診断、合宿研修、情報リテラシー、福祉施設体験実習等)を実施した。

### 6月7日

開学記念行事

◎講演会

◎同窓会学術奨励賞授賞式

岩泉 守哉(ミシガン大学医学部内科学講座)

豊田 博紀(大阪大学大学院歯学研究科 高次脳口腔機能学講座)

◎名誉教授称号授与式

堀内 健太郎(前総合人間科学講座教授)

大関 武彦(前小児科学講座教授)

◎感謝状授与式

附属病院ボランティア(1名)



新入生オリエンテーション(天竜厚生会)

### 6月13日～24日

県内高校生を対象に平成23年度専門基礎科目等授業開放を実施した。(参加者延べ177名)

### 7月20日～8月31日

夏季休業

### 7月23日

第33回 公開講座開講式(開催日 7/23、7/30、8/6、8/20、8/27)

テーマ:脳を活かして健やかに生きる(参加者159名 延べ607名)

### 8月27日

第33回 公開講座閉講式

### 9月9日

平成23年度学生指導担当者研究会

### 9月14日

前期授業終了

### 9月15日～30日

前期定期試験

### 9月29日

第11回慶北一浜松合同医学シンポジウム開催(韓国)



第11回慶北一浜松合同医学シンポジウム開催(韓国)

## 学生ニュース(平成23年3月1日～9月30日)

### ■4月4日

医学科5年次生の臨床実習が始まる。

### ■5月13日～14日

滋賀医科大学との第36回交流会が、  
滋賀医科大学を当番校として行われた。  
浜松医科大学が13種目中2勝9敗2引き分けで通算対戦成績を  
浜松医科大学の13勝18敗5引き分けとした。

### ■5月22日～7月18日

第60回東海地区国立大学体育大会において  
総合成績男子8位、女子6位  
(主管校 愛知教育大学、参加校 8大学)  
主な成績 サッカー:2位  
硬式テニス(女子):2位

### ■6月30日

環境整備の一環として構内草刈りを行い、  
体育系サークル約185名、文化系サークル約11名が参加

### ■7月29日～8月22日

富士山8合目に夏季期間中開設される、  
富士山衛生センターの診療補助者として、  
奥山脩平さん(医学科4年)外6名が従事

### ■7月29日～8月12日

第63回西日本医科学生総合体育大会 総合優勝  
(代表主管校 大阪医科大学医学部、参加校 44大学)  
主な成績 水泳(男子):優勝  
バドミントン(男子):優勝  
サッカー:3位



滋賀医科大学との交流会



東海地区国立大学体育大会



構内草刈り

# サークル活動の記録(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

## 準硬式野球部

春季静岡県内リーグ…優勝  
西日本医科学生総合体育大会…ベスト16

## 男子硬式庭球部

全国大学対抗テニスリーグ戦…東海地区第3部残留  
県学生テニス大会…ダブルス3位

## ソフトテニス部

秋季東海医歯薬大会…ベスト16

## バドミントン部

西日本医科学生総合体育大会  
男子個人戦ダブルス…3位 男子団体…3位  
女子個人戦ダブルス…ベスト8 女子団体…ベスト8  
東海医歯薬学生バドミントン大会  
男子個人戦シングルス…準優勝 男子個人戦ダブルス…優勝  
女子個人戦シングルス…ベスト8 女子個人戦ダブルス…ベスト8  
東海地区国立大学体育大会 男子団体…3位  
静岡県内大学リーグ  
春季 男子…優勝 女子…4位 秋季…準優勝

## ラグビー部

東海医歯薬学生ラグビー大会…出場

## サッカー部

春季東海医歯薬学生大会…準優勝

## ハンドボール部

西日本医科学生体育大会…5位  
(春季・秋季)西日本医歯薬学生大会…準優勝  
秋季西日本医療系学生大会…3位

## 剣道部

中部医歯薬学生大会  
男子個人…3位 女子個人…優勝

## 空手道部

東海地区国立大学体育大会  
男子団体戦…優勝 女子団体戦…優勝  
西日本医科学生総合体育大会  
男子団体…3位 女子団体…3位 女子個人戦…優勝  
全日本大学空手道選手権大会…女子参加

## ヨット部

西日本医科学生総合体育大会  
スナイプ級…3位 470級…9位  
コメディカルレース  
スナイプ級…11位、13位 470級…15位、22位

## 漕艇部

朝日レガッタ  
男子舵手付フォア(4+)…準決勝進出  
男子ダブルスカル(2×)…準決勝進出  
静岡県選手権競漕大会  
男子舵手付フォア(4+)…優勝 男子ダブルスカル(2×)…優勝  
女子舵手付クオドルプル(4×+)…優勝  
中部学生選手権  
男子舵手付フォア(4+)…5位 男子ダブルスカル(2×)…3位  
女子舵手付クオドルプル(4×+)…準優勝  
西日本医科学生総合体育大会  
男子舵手付フォア(4+)…8位 男子ダブルスカル(2×)…3位  
女子舵手付クオドルプル(4×+)…3位

## 弓道部

中部ブロック医科学生弓道大会  
男子団体…準優勝 女子団体…優勝  
静岡県下学生弓道選手権夏季大会  
男子団体…準優勝 女子団体…優勝  
西日本看護学生弓道選手権大会…団体4位  
静岡県下学生弓道選手権春季大会  
男子団体…準優勝 女子団体…優勝

## 陸上競技部

西日本医科学生総合体育大会  
男子総合…4位 男子110mH…優勝 男子ハンマー投げ…優勝  
男子砲丸投げ…2位 男子棒高跳び…3位 女子走高跳び…優勝  
女子3000m…3位  
関西医歯薬  
男子総合…3位 女子総合…優勝 男子100m…優勝  
男子200m…優勝 男子砲丸投げ…2、3位 女子砲丸投げ…2位  
女子3000m…2位 女子4×100R…3位 女子走り高跳び…1、2位  
女子走り幅跳び…3位

## 水泳部

西日本医科学生総合体育大会…総合2位

## 美術部

医大祭での展示  
静岡県西部学生美術展出展

## 茶道部

医大祭でのお茶会開催

## 四ツ葉

あひるの会(自閉症の方とその母親の会)交流  
小児マヒ等で車いすの方と交流(年4回)  
清明寮(児童養護施設)で家庭教師ボランティア

## 軽音楽部

東日本医科学生音楽祭参加

## 管弦楽団

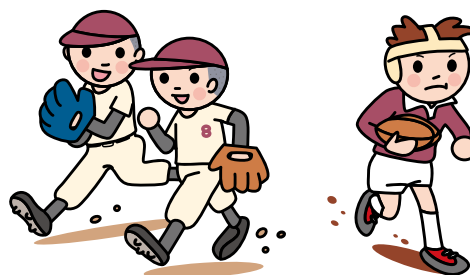
第30回定期演奏会及び医大祭での演奏会開催  
本学附属病院及び遠州病院でのコンサート

## 写真部

東海地区国立大学文化祭参加  
医大祭及び講義実習棟ラウンジでの写真展開催  
可睡ゆり園フォトコンテスト出品  
浜松市「市展」出品

## 奇術部

院内マジックショー及び小児科七夕会マジックショー開催  
医大祭でのマジックショー開催  
地域の子ども会、自治会、福祉施設でのマジックショー開催



## サークル紹介…漕艇部

こんにちは、漕艇部です。

私たち漕艇部は、週に3～6日、朝の5時から8時にかけて佐鳴湖で練習を行っています。学内での活動ではないので、どんな部かご存じない方もいらっしゃるかと思います。寄稿させていただけるこの機会に、その実態を紹介してみたいと思います。

現在、漕艇部は現役34人、引退生22人の計56人で活動しています。基本的に5人ないし2人のクルーを組んで、一年間同じ艇で練習します。このクルーというのが実にやっかいであり、また言い換えればボート部の大きな魅力であると思います。というのも、一度乗ると基本的にはメンバーチェンジはないので、どれだけうまくいなくてもそのクルーでぶつかりあったり、話し合ったりして解決策を見つけ出さなくてはなりません。学年も、看護科or医学科も、やってきた部活も(ほとんどが大学からボートを始めた初心者なので、元バレー部、元陸上部、元バスケ部、元吹奏楽部、元ハンドボール部etc)異なる個人が、分かりあうのにはとても時間がかかるし苦勞もしますが、それを乗り越えたあとの団結力はどの部活にも負けないものになっていると思います。

クルーでご飯に出かけたり、勉強の相談に乗ってもらったり、各年で乗ったクルーのメンバーとはずっとつながりを感じています。この経験で培ったコミュニケーション力は、今後コマディカルの方々とチーム医療を実践していく私たちにとって、大きな糧になってくれるでしょう。

もちろんクルーのつながりだけでなく、部全体としての試合

やイベントも全力で取り組んでいます。春の合宿、5月の朝日レガッタ、夏の合宿、8月の西医体、医大祭、忘年会など、全員で盛り上げて楽しんでいます。今年の西医体では、金メダル1つ、銀メダル2つ、銅メダル1つという成績を残すことができました。

それから漕艇部を語る上で外せないのは佐鳴湖そのものの存在です。実はものすごく水が濁っていて、数年前までは日本一汚い湖だったのですが、近年、浄化装置が稼働したこともあり、無事に汚名を返上しました。周りには公園が整備されており、アップ時に走る道や、艇の上から眺める湖畔は自然豊かで、四季の変化を感じることができます。特に春の桜はなかなかの見応えで、私の大好きな風景のひとつです。今後はこの佐鳴湖や、日ごろ温かく見守ってくださる近隣住民の方々に対して、なんらかの形で感謝を伝えられたらと思っています。

少し現実的な話をすると、ボートはとてもお金のかかる競技です。ボート自体のお値段もさることながら、修理費や維持費などもなかなかあなどれない金額です。そんな競技を学生の私たちが存分に続けられるのは、学校の補助金やOB、OG会の皆さまからの援助のおかげであります。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

今しかできないこの部活に取り組めることに感謝しながら、これからも部員一同、精進していきたいと思っています。

(医学科4年 小林 祐子)





## サークル紹介…茶道部

こんにちは、茶道部です。現在部員十名と小規模な部活ではありますが、楽しく活動しています。

お稽古は週一回で、裏千家流の高田芳子先生に開学当初からご指導いただいております。部員の大半が入部時初心者でしたが、丁寧なご指導のおかげできちんとお点前できるようになりました。卒業時に「小習事」という許状をとる人もいます。

主な活動は毎週のお稽古と、医大祭でのお茶会です。毎週のお稽古では、略盆と平点前を行っていますが、後期からは医大祭に向け、のお稽古を行っています。略盆とは初心者向けのお点前のことで、窯や柄杓ではなく、鉄瓶と呼ばれるものを使います。置くだけでも三種類の置き方がある柄杓など、初心者では扱いが難しいものをなるべく除いているお稽古です。立礼は椅子に座って行うお点前のことで、正座が苦手な方でもお茶を楽しんでいただけるよう、医大祭ではこちらでお茶会を行っています。

茶道という堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、そうならざるを得ない部分もあるのですが、お稽古は和みの場でもあります。茶会で最も重要視されるのは、主催者である、亭主のもてなしの心。それはお稽古の場でも同じであり、お客様にお茶を楽しんでいただくという思いが根本にあります。茶道の多くの決まりごと、もてなしの心から生まれています。

たとえば炉と風炉。茶道では五月から夏なのですが、五月になると窯の位置が変わり、炉と呼ばれる畳の一角をくりぬ



いたものから、亭主の目の前にある風炉へと移動します。夏になったため、火をお客様から遠ざけるという亭主の配慮から来ています。

日本の伝統文化であるために近づきにくい雰囲気を持つ方も多い茶道ですが、茶道の目的はお茶を楽しむことです。お稽古の場が和みの場になれるよう、これからも活動していきたいと思います。

(医学科3年 若月 里江)



## 留学生紹介

大学院医学系研究科博士課程3年 张 綿燕

### The Feeling of Japan

Hi

I am Jinyan ZHANG, a Ph.D. student belongs to Medical Photonics Research Center, Hamamatsu University School of Medicine, I have been Japan for nearly 3 years. During the 3 years in Japan, I have learned a lot of advanced technology and been attracted to Japanese culture.

Before I came to Japan, in my opinion, studying in a different country is essential, especially for scientists, this experience would broaden my view and thoughts. Japan is one of the most developed countries in the world, where medicine technology is very advanced. There are advanced technology and rich experiences, as well as a number of excellent and outstanding talented professors. Studying in Japan is an important chance not only to strengthen my theory but also to improve my experiment skills. In addition it is a good opportunity to expand the field of my eyes. It was known that Japan has a long and glorious history culture, especially medical culture is worth to learn. So I am studying at Hamamatsu University School of Medicine in Japan and hoping the dream will come true.

3 years ago, I arrived in Japan with a nervous and excited heart. But my kindly and warm-heart supervisor picked me up at the airport, comforted my fear in this distant country. He always gives me good supports to both my research and living, and the school staffs make a very considerate arrangement for me. Although the beginning was really hard, now I am enjoying the life very much. Hamamatsu is not a large city like Tokyo, but it is suitable for my study and life. I go to shopping mall, restaurants and parties with my friends. I attended the activities held by the University. I travelled with my friends in Japan during the holiday. These activities were not just for fun but for widening my perspectives. Social activities were also important for me.

During these 3 years, I enjoyed all kinds of activities organized by the University. During outing, some Japanese people introduced Japanese culture to me and made me know more about Japan and Japanese culture and therefore I could easily get used to life here.

As far as I concern about, the biggest challenge for me is adapting to the Japanese food. I used to eat cooked food, so at the first it was difficult for me to get used to Japanese food just like sashimi. However, now I feel comfortable eating those Japanese foods. Moreover, I enjoy the unique taste very much. From that experience, I began to realize that we should be empathetic towards another culture and try to adopt that especially in that case we have to live in a new country for a long time. If you do not, you will find yourself separated from the majority, and it would be a big problem.

In my concept, Japan is a very clean and good-mannered country. Environmental issues are particularly emphasized here. Walking in the streets in Japan, you would not see any litter and anyone who litters. The garbage and cans are always washed before they are thrown away and the paper drink boxes are thrown away just after tearing up and folding. People here try their best not to bother others and manage everything on their

own if it is possible. In addition, according the communication with Japanese people, I understand I should say polite-language when I speak to my superior and other leaders and it is rude if you do not. I also understand I should keep quiet in public places and never bother other people. The rhythm of life in Japan is really fast and it seems that so many people work from 9am to midnight with their high enthusiasm, it gives me some invisible pressure. I gradually realize that I must try my best move on so that I could live in such a competitive country. I think if we have enthusiasm to learn new things and with all the available support from the University, we will leave Hamamatsu University School of Medicine with a lot of good things which would be beneficial to our future career.

I have got different experiences from others. I have learned a lot of knowledge, collected many experiences, understood Japanese culture more and made so many friends. During spending my student life here, I have built and deepen a friendship with Japanese students by exchanging and sharing opinions and knowledge of various things in each country. I am very grateful that I can study in Japan which has broadened my insight and widened my vision. Now I have grown up more and my ideas have also been more mature. 3 years student life in Japan has left me a lot of beautiful memories, and I am hoping to commit myself to develop the relationship between Japan and China. As soon as I finish my study in Hamamatsu University School of Medicine. I would like to promote the advanced technology and new viewpoint about modern medicine I learn from Hamamatsu University School of Medicine in Japan, and take advantage them to tackle the problem in my future work and study. Furthermore I will introduce advanced medical technology and improve scientific research method and clinical technology to my country. I believe my education at Hamamatsu University School of Medicine will help me to make contribution to improvement of medical care in my country.

Thanks to the experience at Hamamatsu University School of Medicine. Now I already have a positive attitude towards everything I am doing and I am so confident of that.



## 平成23年度 入学者選抜状況

学科名	区分 〔募集人員〕	志願者数	第1段階 選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学 辞退者数	追加 合格者数	入学者数
医学科	前期日程 〔75〕	311 (106)	—	254 (84)	75 (20)	2 (0)	0 (0)	73 (20)
	後期日程 〔10〕	251 (111)	—	135 (61)	10 (4)	2 (1)	1 (1)	9 (4)
	推薦入学 〔30〕	74 (38)	—	72 (37)	32 (18)	0 (0)	0 (0)	32 (18)
	帰国子女 〔若干名〕	20 (7)	—	19 (7)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	私費外国人 〔若干名〕	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計 〔115〕	656 (262)	—	480 (189)	118 (42)	4 (1)	1 (1)	115 (42)
	2年次編入学 〔5〕(10月入学)	126 (41)	40 (10)	39 (10)	5 (2)	2 (1)	2 (1)	5 (2)
看護学科	前期日程 〔35〕	64 (57)	—	62 (56)	35 (31)	1 (1)	0 (0)	34 (30)
	推薦入学 〔25〕	58 (55)	—	58 (55)	23 (22)	0 (0)	0 (0)	23 (22)
	帰国子女 〔若干名〕	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	社会人 〔若干名〕	8 (6)	—	8 (6)	4 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (3)
	合計 〔60〕	130 (118)	—	128 (117)	62 (56)	1 (1)	0 (0)	61 (55)
	3年次編入学 〔10〕	18 (17)	—	15 (14)	10 (9)	1 (1)	1 (1)	10 (9)
助産学 専攻科	合計 〔16〕	75 (75)	—	68 (68)	16 (16)	2 (2)	2 (2)	16 (16)

( )書きは、内数で女子を示す。

## 平成23年度 入学者選抜卒業年別内訳

学科名	卒業年月	平成23年3月	平成22年3月	平成21年3月	平成20年 以前	大学検定	帰国子女	合計	私費外国人
医学科	志願者	392(182)	135(50)	40(7)	63(14)	6(2)	20(7)	656(262)	0(0)
		59.8%	20.6%	6.1%	9.6%	0.9%	3.0%	100.0%	
	入学者	59(26)	42(14)	9(2)	4(0)	0(0)	1(0)	115(42)	0(0)
		51.3%	36.5%	7.8%	3.5%	0.0%	0.9%	100.0%	
看護学科	志願者	113(106)	7(5)	1(1)	9(6)	0(0)	0(0)	130(118)	
		86.9%	5.4%	0.8%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%	
	入学者	53(50)	3(2)	0(0)	5(3)	0(0)	0(0)	61(55)	
		86.9%	4.9%	0.0%	8.2%	0.0%	0.0%	100.0%	
合計	志願者	505(288)	142(55)	41(8)	72(20)	6(2)	20(7)	786(380)	0(0)
		64.2%	18.1%	5.2%	9.2%	0.8%	2.5%	100.0%	
	入学者	112(76)	45(16)	9(2)	9(3)	0(0)	1(0)	176(97)	0(0)
		63.6%	25.6%	5.1%	5.1%	0.0%	0.6%	100.0%	

備考1. ( )書きは、内数で女子を示す。

備考2. 編入学を除く。

## 平成23年度 入学者選抜出身高等学校等所在地別入学者数内訳

都道府県	医学科	看護学科	計
北海道	1(0)		1(0)
青森			0(0)
岩手			0(0)
宮城		1(1)	1(1)
秋田			0(0)
山形			0(0)
福島	1(0)		1(0)
茨城	1(0)		1(0)
栃木			0(0)
群馬	2(1)	1(1)	3(2)
埼玉	2(1)		2(1)
千葉		1(1)	1(1)
東京都	7(1)		7(1)
神奈川県	7(2)		7(2)
新潟			0(0)
富山			0(0)
石川			0(0)
福井			0(0)
山梨			0(0)
長野	2(1)		2(1)
岐阜		1(0)	1(0)
静岡県	69(29)	46(43)	115(72)
愛知県	14(6)	6(5)	20(11)
三重			0(0)
滋賀			0(0)
京都	4(1)	1(1)	5(2)
大阪			0(0)
兵庫	2(0)	1(1)	3(1)
奈良			0(0)
和歌山	1(0)	1(1)	2(1)
鳥取			0(0)
島根			0(0)
岡山			0(0)
広島			0(0)
山口			0(0)
徳島			0(0)
香川			0(0)
愛媛		1(0)	1(0)
高知			0(0)
福岡			0(0)
佐賀			0(0)
長崎			0(0)
熊本			0(0)
大分			0(0)
宮崎			0(0)
鹿児島	1(0)		1(0)
沖縄		1(1)	1(1)
大学検定			0(0)
外国			0(0)
帰国子女	1(0)		1(0)
私費留学生			0(0)
合計	115(42)	61(55)	176(97)

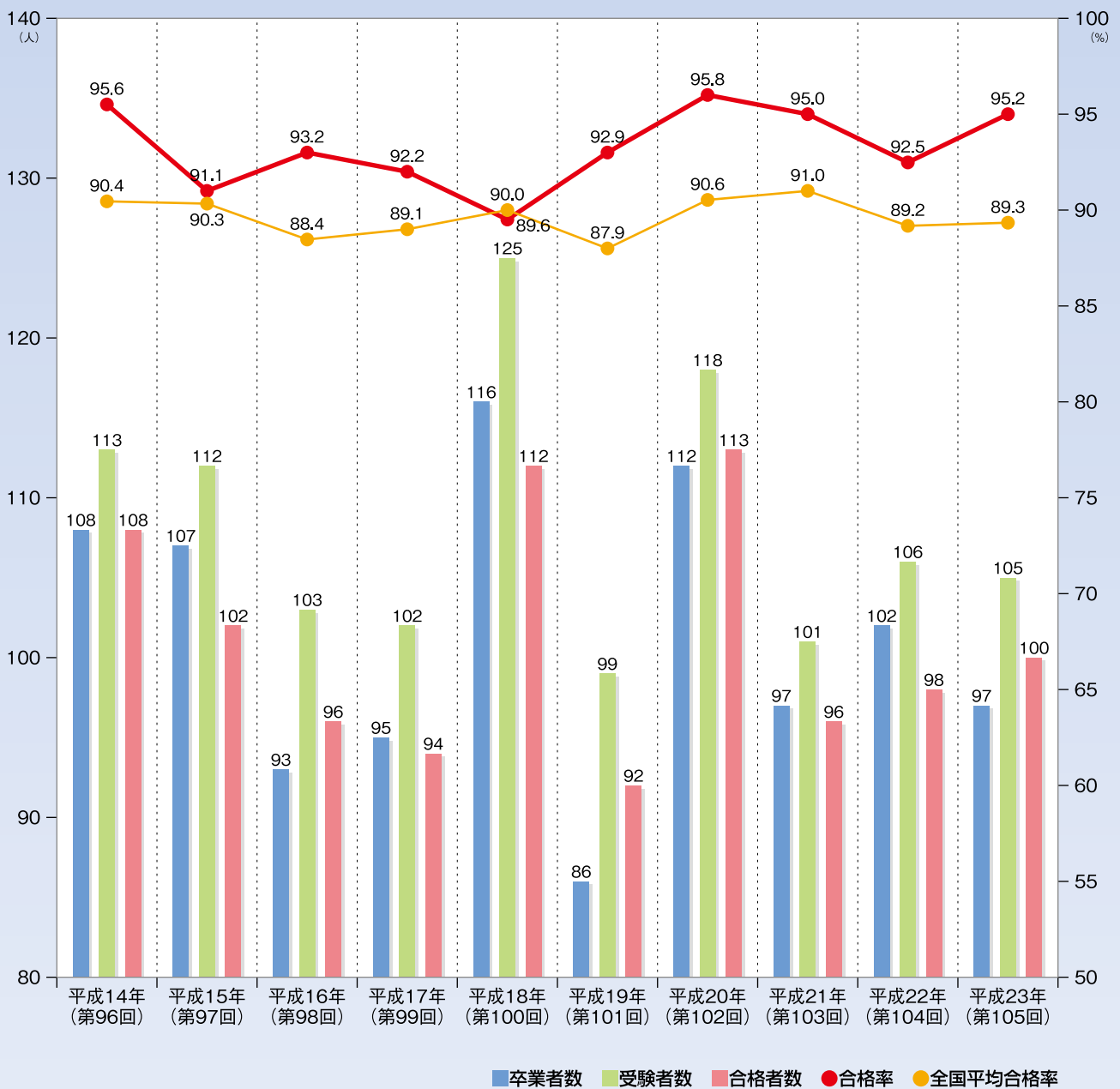
備考1. ( )書きは、内数で女子を示す。

備考2. 編入学を除く。

## 浜松医科大学医学部医学科卒業者の医師国家試験合格状況(年次別)

年	回数	卒業生数	受験者数 (既卒を含む)	合格者数 (既卒を含む)	合格率(%) (既卒を含む)	全国平均 合格率(%)	全国順位
平成14年	第96回	108(24)	113	108	95.6	90.4	19位
平成15年	第97回	107(33)	112	102	91.1	90.3	39位
平成16年	第98回	93(44)	103	96	93.2	88.4	22位
平成17年	第99回	95(38)	102	94	92.2	89.1	29位
平成18年	第100回	116(40)	125	112	89.6	90.0	50位
平成19年	第101回	86(27)	99	92	92.9	87.9	20位
平成20年	第102回	112(31)	118	113	95.8	90.6	11位
平成21年	第103回	97(39)	101	96	95.0	91.0	21位
平成22年	第104回	102(35)	106	98	92.5	89.2	24位
平成23年	第105回	97(31)	105	100	95.2	89.3	8位

( )内は女子で内数



トピックス

新任職員の紹介

海の向こうで

大学ニュース

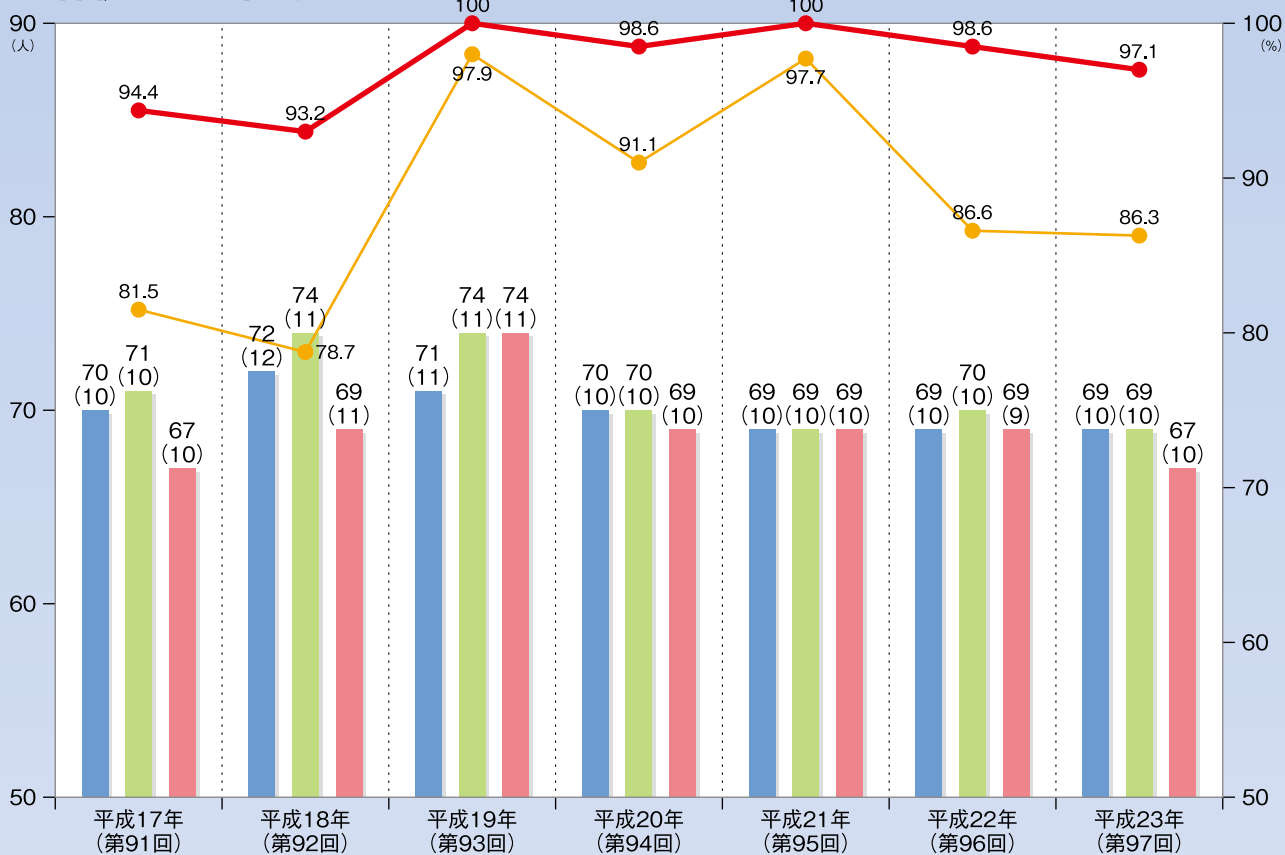
寄稿

卒業生は今

# 浜松医科大学医学部看護学科卒業者の保健師・看護師・助産師の国家試験合格状況

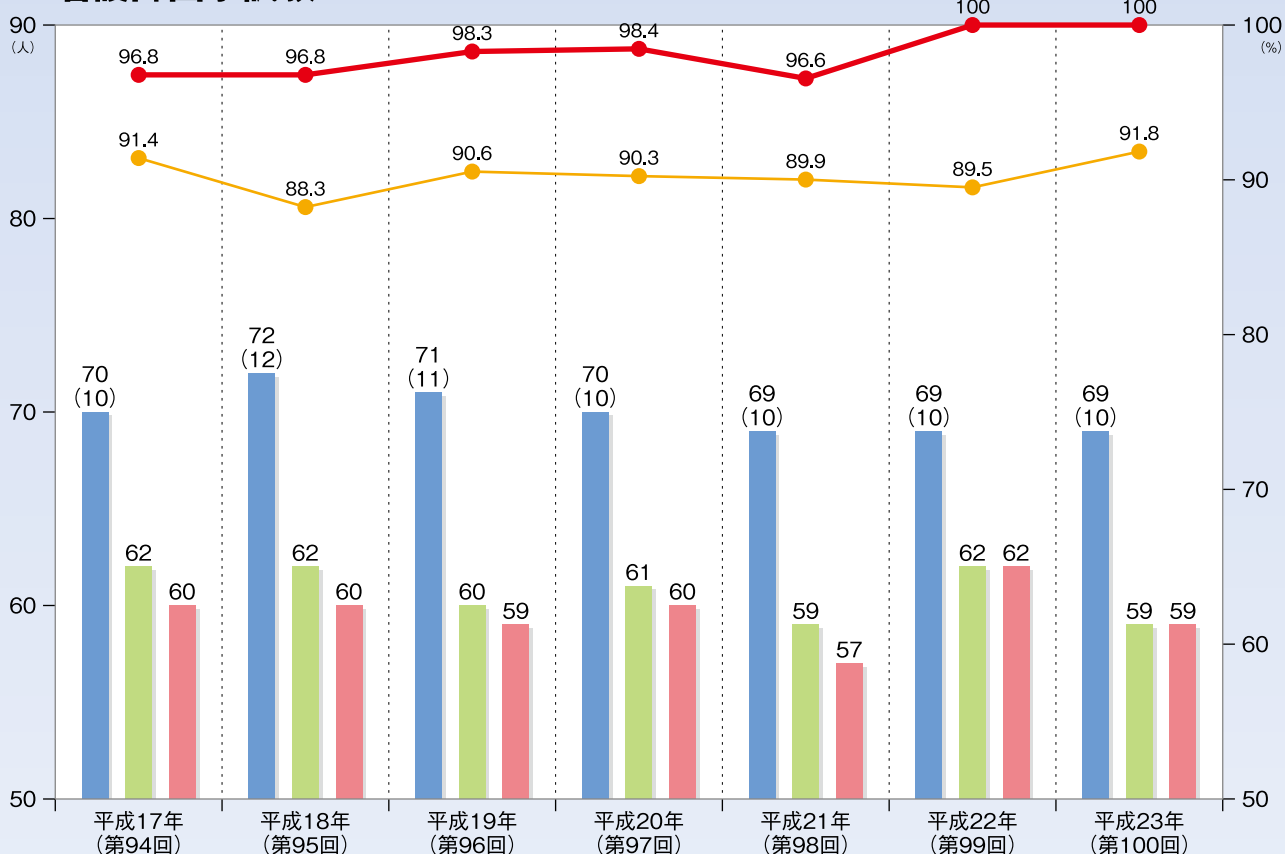
(年次別)

## 保健師国家試験



( )は新卒の3年次編入生で内数

## 看護師国家試験



( )は新卒の3年次編入生で内数

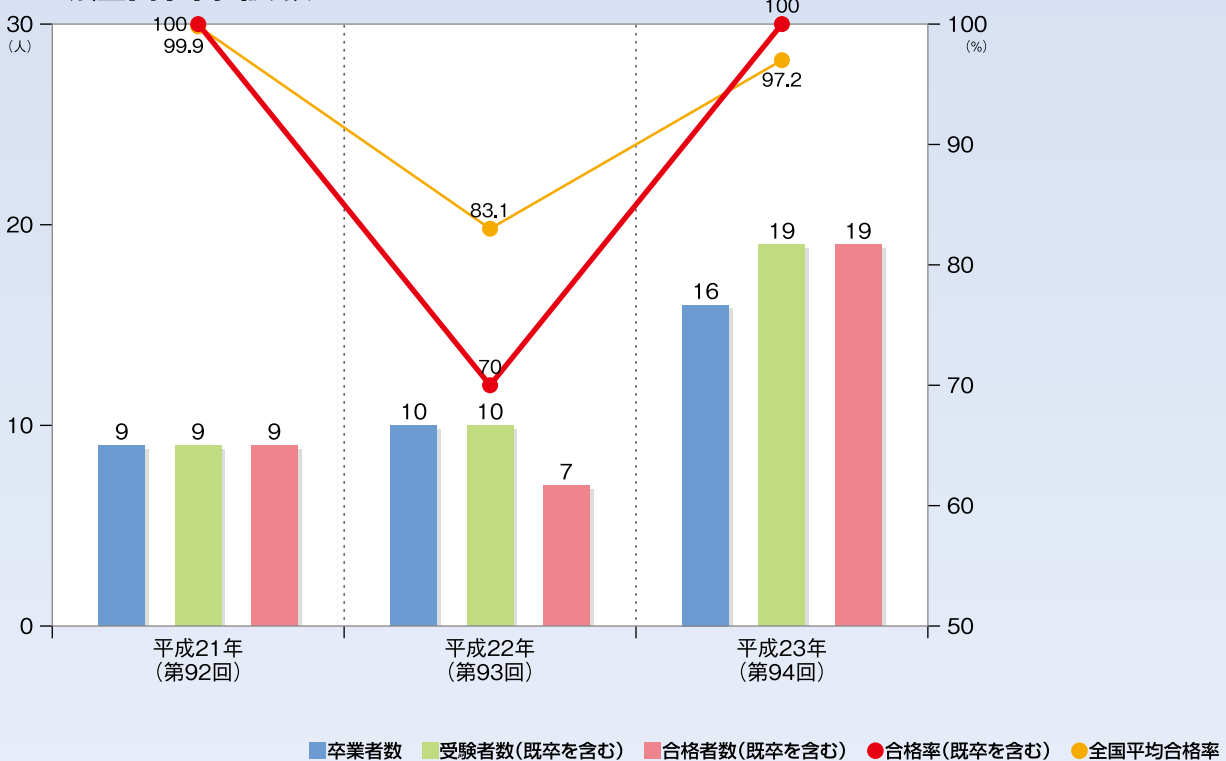
### 助産師国家試験



( )は新卒の3年次編入生で内数、平成23年は助産学専攻科の設置に伴い既卒者のみ

### 浜松医科大学助産学専攻科修了者の助産師の国家試験合格状況(年次別)

### 助産師国家試験



■卒業生数 ■受験者数(既卒を含む) ■合格者数(既卒を含む) ●合格率(既卒を含む) ●全国平均合格率

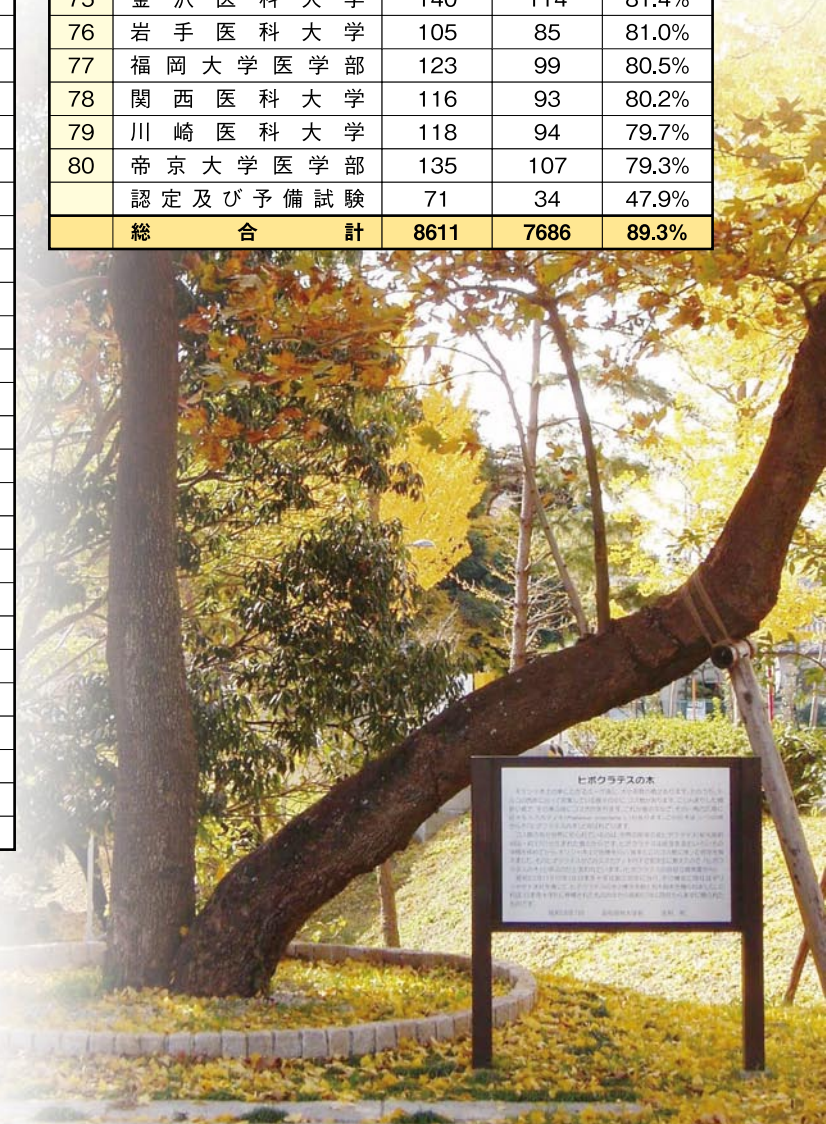
## 第105回医師国家試験 大学別合格状況

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
1	滋賀医科大学	105	104	99.0%
1	自治医科大学	102	101	99.0%
3	東京慈恵会医科大学	106	103	97.2%
4	慶應義塾大学医学部	105	101	96.2%
4	札幌医科大学	104	100	96.2%
6	筑波大学医学専門学群	115	110	95.7%
7	京都府立医科大学	110	105	95.5%
8	浜松医科大学	105	100	95.2%
8	東京医科大学	125	119	95.2%
8	北海道大学医学部	104	99	95.2%
8	東京医科歯科大学医学部	83	79	95.2%
12	産業医科大学	101	96	95.0%
13	山梨大学医学部	96	91	94.8%
14	広島大学医学部	114	108	94.7%
15	弘前大学医学部	101	95	94.1%
16	千葉大学医学部	114	107	93.9%
17	山形大学医学部	97	91	93.8%
18	福井大学医学部	110	103	93.6%
19	名古屋大学医学部	107	100	93.5%
20	旭川医科大学	105	98	93.3%
20	福島県立医科大学	89	83	93.3%
22	金沢大学医学部	116	108	93.1%
23	順天堂大学医学部	100	93	93.0%
24	島根大学医学部	110	102	92.7%
25	藤田保健衛生大学医学部	116	107	92.2%
25	鳥取大学医学部	103	95	92.2%
25	横浜市立大学医学部	64	59	92.2%
25	東京大学医学部	102	94	92.2%
29	三重大学医学部	99	91	91.9%
30	信州大学医学部	106	97	91.5%
31	鹿児島大学医学部	93	85	91.4%
31	名古屋市立大学医学部	81	74	91.4%
33	大分大学医学部	103	94	91.3%
33	大阪市立大学医学部	80	73	91.3%
35	大阪医科大学	123	112	91.1%
36	日本大学医学部	107	97	90.7%
36	新潟大学医学部	107	97	90.7%
38	徳島大学医学部	99	89	89.9%
38	宮崎大学医学部	99	89	89.9%
40	東邦大学医学部	108	97	89.8%
41	岐阜大学医学部	96	86	89.6%
41	杏林大学医学部	115	103	89.6%
43	長崎大学医学部	104	93	89.4%
44	愛媛大学医学部	103	92	89.3%
44	東海大学医学部	131	117	89.3%
46	日本医科大学	111	99	89.2%
46	大阪大学医学部	111	99	89.2%
48	東京女子医科大学	116	103	88.8%
49	防衛医科大学校	71	63	88.7%
50	北里大学医学部	113	100	88.5%

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
51	富山大学医学部	95	84	88.4%
51	和歌山県立医科大学	69	61	88.4%
53	兵庫医科大学	111	98	88.3%
54	佐賀大学医学部	102	90	88.2%
55	獨協医科大学	109	96	88.1%
55	高知大学医学部	109	96	88.1%
57	聖マリアンナ医科大学	107	94	87.9%
58	群馬大学医学部	106	93	87.7%
59	奈良県立医科大学	96	84	87.5%
60	久留米大学医学部	118	103	87.3%
61	昭和大学医学部	133	116	87.2%
61	山口大学医学部	109	95	87.2%
61	京都大学医学部	109	95	87.2%
64	香川大学医学部	100	87	87.0%
65	神戸大学医学部	99	86	86.9%
66	東北大学医学部	119	103	86.6%
67	埼玉医科大学	115	99	86.1%
68	岡山大学医学部	116	99	85.3%
69	近畿大学医学部	124	105	84.7%
70	九州大学医学部	113	95	84.1%
71	愛知医科大学	131	109	83.2%
71	秋田大学医学部	101	84	83.2%
73	琉球大学医学部	106	88	83.0%
74	熊本大学医学部	121	99	81.8%
75	金沢医科大学	140	114	81.4%
76	岩手医科大学	105	85	81.0%
77	福岡大学医学部	123	99	80.5%
78	関西医科大学	116	93	80.2%
79	川崎医科大学	118	94	79.7%
80	帝京大学医学部	135	107	79.3%
	認定及び予備試験	71	34	47.9%
	<b>総 合 計</b>	<b>8611</b>	<b>7686</b>	<b>89.3%</b>

右写真：ヒポクラテスの木(スズカケノキ)

この木の下でヒポクラテスが医学生に医学を教えたと言われています。  
本学にも、その木の子孫が植えられています。





## 平成23年3月 浜松医科大学医学部医学科卒業者の就職状況

就職先等	人数	内訳	(人)
本学附属病院	24	浜松医科大学医学部附属病院	24
国立大学附属病院	9	滋賀医科大学医学部附属病院 千葉大学医学部附属病院 東京医科歯科大学医学部附属病院 東京大学医学部附属病院	2 1 4 2
公立大学病院	3	横浜市立大学附属病院 京都府立医科大学附属病院	1 2
私立大学病院	7	慶應義塾大学病院 国際医療福祉大学病院 埼玉医科大学病院 自治医科大学附属さいたま医療センター 順天堂大学医学部附属順天堂医院 東京慈恵会医科大学附属病院	2 1 1 1 1 1
国立病院	4	国立国際医療研究センター病院 国立病院機構千葉医療センター 国立病院機構東京医療センター	2 1 1
公立病院	21	伊勢崎市民病院 磐田市立総合病院 県西部浜松医療センター 静岡県立総合病院 静岡市立静岡病院 島田市民病院 市立岸和田市民病院 千葉県がんセンター 東京都健康長寿医療センター 都立広尾病院 藤枝市立総合病院 藤沢市民病院 横浜市立市民病院	1 4 4 2 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1
その他病院	25	JA愛知県厚生連 安城更生病院 JA静岡厚生連 遠州病院 足利赤十字病院 刈谷豊田総合病院 北見赤十字病院 京都南病院 埼玉県済生会川口総合病院 静岡赤十字病院 社会保険中京病院 済生会横浜市南部病院 聖隷浜松病院 聖隷三方原病院 千葉労災病院 同愛記念病院 東京厚生年金病院 東名厚木病院 虎ノ門病院 長野中央病院 名古屋第一赤十字病院	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 5 1 1 1 1 1 2 1 1 1
未就職	1		1
国家試験不合格	3		3
合 計			97

トピックス

新任職員の紹介

海の向こうで

大学ニュース

寄稿

卒業生は今

## 平成23年3月 浜松医科大学医学部看護学科卒業者の就職状況

就職先等	人数	内訳	(人)
本学附属病院	29	浜松医科大学医学部附属病院	29
国立大学附属病院	7	熊本大学医学部附属病院 群馬大学医学部附属病院 東京医科歯科大学医学部附属病院 東京大学医学部附属病院 名古屋大学医学部附属病院 広島大学病院	1 1 1 1 2 1
公立大学病院	2	名古屋市立大学病院 横浜市立大学附属市民総合医療センター	1 1
私立大学病院	1	東海大学医学部附属病院	1
国立病院	0		0
公立病院	9	愛知県心身障害者コロニー中央病院 磐田市立総合病院 県西部浜松医療センター 静岡県立総合病院 中津川市民病院	1 1 4 2 1
その他病院	9	JA静岡厚生連遠州病院 刈谷豊田総合病院 静岡赤十字病院 聖隷浜松病院 埼玉共同病院	2 1 1 4 1
県・市・健診センター	5	掛川市(養護教諭) 長野県庁 浜松市役所	1 1 3
企業	3	スズキ株式会社 中部電力株式会社	2 1
進学	3	浜松医科大学助産学専攻科	3
未定	1		1
合 計			69

## 平成23年3月 浜松医科大学助産学専攻科修了者の就職状況

就職先等	人数	内訳	(人)
本学附属病院	1	浜松医科大学医学部附属病院	1
国立大学附属病院	2	金沢大学附属病院	2
私立大学病院	1	東海大学医学部附属病院	1
公立病院	3	磐田市立総合病院 静岡県立総合病院	1 2
その他病院	9	愛育病院 刈谷豊田総合病院 聖隷三方原病院 日立総合病院 愛仁会高槻病院	2 1 4 1 1
合 計			16

## 平成23年度への進級状況

### 1. 医学部医学科(単位:人)

区分	1年次生 → 2年次生		2年次生 → 3年次生		3年次生 → 4年次生	
在籍者	119		115		104	
進級者・卒業者		115		107		100
留年者	4		7		4	

区分	4年次生 → 5年次生		6年次生 → 卒業	
在籍者	95		99	
進級者・卒業者		94		97
留年者	1		2	

### 2. 医学部看護学科(単位:人)

区分	1年次生 → 2年次生		2年次生 → 3年次生		4年次生 → 卒業	
在籍者	63		65		71	
進級者・卒業者		59		63		69
留年者	3		2		2	



# 私の経験から「法人化後の浜松医科大学」の皆様に伝えたいこと

監事 山崎 勝康

昨年の4月に浜松医大の監事に就任してから、早いもので約1年半が経ちました。それまでは地元企業の遠州鉄道(株)に45年間勤務し、高度成長期、バブル崩壊、長引く不況など激しく移り変わる環境下で経営に携わってきました。

遠州鉄道と浜松医大の関係は、遠鉄バス・タクシーの構内乗り入れや学生の遠鉄自動車学校の教習受講等が挙げられ、大変お世話になっているという印象がありました。そして浜松医大は格式があり、敷居の高い大学というイメージを持っておりました。

また、私が以前浜松医療センターの独立行政法人化の準備委員、理事等をしていた関係上、当大学が数年前より国の一機関としてではなく、独立した法人として運営が行われていることは知っておりました。

## 経営の三つの資源

皆さんがご承知のように、大学の法人化は「小さな政府」を目指す新自由主義政策の一環として、各大学に権限と責任を持たせることで自主自立の運営を可能とし、民間的発想の経営手法を導入しながら、効率的な運営を行うことを目的にしています。

大学法人と民間の法人は事業の目的こそ違いますが、法人を運営していく上での原理原則は同じです。法人は、「ヒト・モノ・カネ」が経営の三つの資源と言われており、その中でも人材(→人財)が最も大切だと私は考えています。

## 法人化に伴う意識改革

さて、私が浜松医大の監事に就任してから心掛けた事が2つあります。

一つ目は、現場実態がどのようになっているかを知ることです。そのために、主要会議は勿論ですが、各種委員会、各委員による職場巡視等、出来る限り御一緒させていただいています。隔週8時30分より病院長室で行われる「おはよう会」と月2回行われる「安全衛生委員会の職場巡視」が、その中で大変参考になっています。

「おはよう会」では、2週間の病院内の出来事がリアルに議論され、具体的な解決方法が検討されます。私は、前の



安全衛生委員会の職場巡視に同行する山崎監事

職場で毎週7時30分から1時間の早朝会議を実施し、意見交換及び議論することで、スピード感ある決定を行い、実行に移していました。そうすることで、相互理解が深まるとともにモチベーションがアップし、仕事が非常に円滑に進みました。浜松医大においても同じような良い現象が起きていると思います。

「安全衛生委員会の職場巡視」では、本来の目的である各職場の整理・整頓状況は勿論、職場での皆さんの仕事の様子がよく分かります。整理・整頓は職場の心の表われと言われますが、職場によって大きな差があります。私の過去の経験では、整理・整頓ができていない職場は、ミスが多く、仕事の成果が上がっておりませんでした。

二つ目は、法人運営の組織・規則がどのように運営されているかを知ることです。役員会、経営協議会、教育研究評議会を中心に7つの企画室会議があります。一部重複、形骸化している部分も見受けられますが、一步一步と改善がなされていると思います。

法人化のために組織・規則は大幅に変革され、また大学への評価方法は、事前評価から事後評価へ変更され、会社法人に優るとも劣らぬ制度が出来ていると思います。しかし運営していくのは職員の皆様です。法人化したからといって組織のメンバーが入れ替わったわけではないですから、まだまだ旧来の慣行に従って進められることが多いようです。文科省発行の書籍のなかで「大学は法人化されたが、人は法人化されていない」と厳しい意見がありました。正に「仏つくて魂はいらず」とならないよう、注意しなければいけません。良き旧来の慣行は生かし、変えるべきものは変え、より効

率的・効果的な運営を図る必要があると考えます。その為には、法人化に適したマネジメント能力を育成し、「常に変える」という問題意識改革が急務です。例えば会議を例にあげると、その会議は本当に必要か、開催回数、出席人数、時間、資料等が適正かを検討する必要があると思います。

## 現状維持は退歩、倒産への道

一般企業では「現状維持は退歩であるとか、また倒産への道」とよく言われています。人間は、「前例踏襲・横並び・先送り・指示待ち」になりやすく、また変えることに対する3つの大きな壁「組織・上下関係・自分自身」があります。その為、法人化に適した改革を常に意識し実行する必要があります。

私は前職で、自ら改革してもらうために次の3点に力を注いできました。

1. 年度の事業計画を作成する時に、  
全ての事業(仕事)の目的意義を明確にし、  
全員で改良・改善(中止を含め)点がないか検討、  
実施しました。
2. 日常的には次の2つの運動を通じ、  
常に改善意見を集約しました。  
(1)5S運動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)  
(2)明るい挨拶と報告、連絡、相談運動
3. 従業員の実行力を向上させるため、  
改善提案に対して全員に見える化を図り、  
優秀提案者を表彰しました。

## 自ら変える組織風土の醸成

法人化後、大学運営の中期目標の策定とその結果を評価(内部・外部)するシステムが制度化され、実行に移されています。現在、第2期計画が策定され、1年半が経過しております。この計画は、大学運営の根幹をなすものであり、「計画の為の計画」、「評価の為の評価」とならないよう、注意しなければなりません。計画に沿って各部門、個人が何を行なうかを十分に議論し、具体的に実行していく必要があります。

全てを動かすのは人です。その人たちがいかに高い志、情熱、使命感を持ち、目標達成に向けて実行できるかが発展の大きな鍵になります。その為には、現場で働く人を大切に、多くの現場の意見を十分に聞き、決定し、実行することが必要です。そして、指示・命令を待つだけでなく、自ら問題に気づき、知恵を出し、改善を行なうという「組織風土」を醸成していく必要があると思います。大学は知の集積と言われており、個人の専門知識、能力に頼ることが多く、部門ごとで部分最適な判断になりやすい傾向にあります。そこで、各リーダーはその点を十分に注意し、「個人の力を組織の力」に変換していくマネジメント能力が必要になります。また、自民党のマニフェストには「東大・京大等に民間企業型ガバナンスを導入し民営化を図る」と記載もされており、ますます強い大学づくりを目指す必要があります。

最後になりますが、医大広報誌「NEWS LETTER」の紙面が今回から変わりました。私も広報委員会等への出席をしていましたが、前述したように「変える」ことに対する3つの壁を乗り越えるために、ご担当者の方は大変ご苦労されたと思います。これが、大学全体を「変える」きっかけになればと願っています。



## 小田原から世界へ

## 医学科17期生(平成8年3月卒業) 中山 荘太郎

といっても国際学会で研究発表や特別講演をする訳ではありません。医大卒業後救命救急科や脳神経外科での研修を経て、現在は小田原にて一般内科医として外来や往診、更に看護学校の講義にと日々奮闘しています。勤務先は国道1号線沿いで酒匂橋より東京寄りに位置し、新春の風物詩である箱根駅伝を、毎年テレビではなく間近に見ることができます。

小田原に来て11年になりますが、自分が所属している小田原医師会合唱団について書かせて頂こうと思います。学生時代はラグビーや合唱、文芸やMMK、学外でのムーンライトシアター(現在はシネマイーラ?)など数多くのクラブに参加していました。学生時代なら集中して取り組むことができる、一方医師として働き始めたら自由にはできないという思いがあり、それらすべてに打ち込んでいたのです。実際医師になってから週に1回走ることはあっても、合唱までするようになるとは思ってもみませんでした。それが平成20年3月に小田原医師会合唱団結成、しばらくしてから練習に参加するようになりました。

さて団員構成ですが、男性約15名、女性約30名、医師・歯科医師・薬剤師・保健師・医師会事務局員・看護学校職員など職種はさまざま、賑やかな集まりです。一般的なミサ曲に始まり、「サウンド・オブ・ミュージック」などのメジャーな映

画音楽、童謡詩人で有名な「金子みすゞ」やマルチな才能を発揮した「寺山修司」作詩の曲、更に人気グループである「いきものがかり」の最近の曲まで幅広く歌ってきました。

平成21年8月に第1回定期演奏会、平成22年7月の箱根芦ノ湖畔での2泊3日の合宿を経て、同年9月に第2回定期演奏会を迎えることができました。その他に小田原市民合唱祭、新年会や忘年会など発表する機会は数多くありました。平成23年9月には芸術の都パリでの公演(オペラ座ではなく16区の教会で)も予定されています。更に期日は未定ですが、オーストラリアや京都での公演の話もあります。

今まではパリへはラグビーやサッカーのワールドカップ観戦などで行きましたが、合唱目的で行くのは一生に一度あるかないかでしょう。何としてでも参加し、パリの空気を肌で感じながら合唱したいと思います。セーヌ川沿いやシャンゼリゼ通りを歩き、エッフェル塔や凱旋門に登り、オランジュリーやマルモタンで名画をじっくりと鑑賞したいものです。

ちょっと脱線しましたが、医師会合唱団は全国的には神戸や横浜など数えるほどしかないらしいので、ここ小田原で学生時代に続いて合唱団に所属していることに、不思議な縁を感じます。これからも日々仕事に励み、趣味を楽しんでいきたいと思っています。



♪サウンド・オブ・ミュージック♪



わがテノール、8人衆ぜよ!!(23番が筆者)

## 院長夫人奮闘記

看護学科5期生(平成15年3月卒業) **屋富祖 奈保子**(旧姓 田島)

早いもので、今年卒後9年目になります。

私は、一昨年の出産を機に仕事を辞め、のんびり楽しく子育て中心の生活をしていました。そんな私に、昨年夫が小児科を開業し、“院長夫人”になるという大事件が起きました。ちなみに夫も浜松医科大学卒業で、23期生になります。

卒業生の皆さん、“院長夫人”の方いらっしゃいますか?もしいらっしゃるなら、院長夫人サークルなるものを作りたいくらいの気持ちです。院長夫人と聞くと、世間的には優雅でのんびり…というイメージがあるのではないのでしょうか?(私もそんなイメージでした。)が、実際はと言えば、職員に気を使っても煙たがられ、言いたいことは言えず、雑用は多く…とにかくとても忍耐のいる立場だと思います。開院当初、私はまだ20代。自分がどのように病院経営に携わったらよいか、職員とどのように関わっていくのか…よくわからないまま開院準備は進んでいきました。

そして、開院前の一番の大仕事といえば職員の採用面接です。職員を募集すると、約80名の応募があり、書類選考を行った後、丸一日かけて約20名の面接を行いました。面接をするという初めての経験をさせていただきましたが、予想よりもはるかに大変で、特に子育て中心の生活をしていた私にとっては、久々に頭を使う機会となり、疲れ果てたことを覚えています。

面接後の選考も難しく、悩みましたが、過去に看護学科の助

手をやらせていただいて、さまざまな学生を指導した経験がとて役に立ちました。夫や開院準備に携わっていただいた方々と話し合い、無事職員も決定、研修が始まりました。私自身卒業後ずっと小児看護に携わってきたこともあり、看護師の仕事は手伝いたい気持ちもありましたが、色々考えた結果、職員に任せることにしました。研修も看護師業務に関しては院長に任せ、事務の研修を一緒に受けました。職員にとっても私にとってもこの選択は良かったと思っています。現在も看護師業務はどうしても人が足りない時のみ手伝うかたちで、病院に出る際は事務の仕事をしています。

そして研修を終え、無事内覧会、開院初日を迎えました。初日は職員全員で挑んだ結果…患者6人!!経営していけるのだろうかと不安な初日でした。現在は有難いことに無事患者も増え、忙しい日々です。開院当初は患者が増えないのが悩みでしたが、現在はとにかく人事や、職員の対応に頭が痛いです。まだまだ開院一年、慣れないことも多く大変ですが、日々勉強だと言い聞かせながら頑張っています。そして、いずれ自分の子育てが落ち着いたら、診療所に来てくれる患者さん親子を集めて子育ての悩みを相談し合ったり、情報を交換できるような場を提供して、地域の子育ての手助けをできたらいいなあと密かな夢を抱いています。

PS:豊田市近郊にお住まいの方、看護師募集中です。



## 古代エジプトパピルス展

8月1日(月)～10月31日(月)に本学附属図書館で、「見てみよう・触れてみよう・感じてみよう 古代エジプトパピルス展」を開催しました。古代技法で復原された貴重なパピルスに、古代エジプト美術の至宝を再現した8葉が展示されました。



## 静岡大学と浜松医科大学の研究情報交換会

9月13日(火)～9月16日(金)に本学を会場に「第3回静岡大学と浜松医科大学の研究情報交換会」が開催されました。3回目となる今回は、静岡大学の研究成果36演題をポスターで展示し、両大学での研究における連携の可能性を探る形式となっています。

開会式では、本学の中村学長、静岡大学の伊東学長よりの挨拶、知財活用・産学官連携コーディネーターの紹介があり、その後、ポスター討論が行われました。9月16日には、「第4回浜松医科学シンポジウム」も引き続き開催され、静岡大学の研究者も多数出席しました。



研究情報交換会



浜松医科学シンポジウム

### 編集後記

装い一新、今年度第1号の「ニュースレター」をお届けいたします。大変お忙しい中にもかかわらず執筆いただきました皆様に深くお礼を申し上げます。ありがとうございました。寄稿していただいた方々の職務、研究、学業、趣味に向けられた熱意に触れ元気をいただきました。ニュースレターは、先輩から知識・経験を学び、後輩から新しい感覚を吸収する格好の場であると思います。さらに魅力あるニュースレターにするため、今後も皆様からのご意見、ご寄稿をお待ちしております。よろしくお願い致します。

ニュースレター編集委員 K.T.

小誌をご覧になったご意見・ご感想をお寄せください。また、皆様からの各欄へのご寄稿を随時受け付けております。紙面作りに、是非ご参加ください。

浜松医科大学ニュースレター編集部会編集

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1

TEL.053-435-2114(総務課) FAX.053-435-2112

e-mail:ssb@hama-med.ac.jp

### 【表紙】

学生ラウンジ  
(H23.9.7撮影)

平成23年4月に福利棟  
学生食堂横に新設されま  
した。



ニュースレターのバックナンバーは、浜松医科大学ホームページでもご覧いただけます。 本学ホームページトップ > 大学紹介 > 刊行物 > NEWSLETTER  
URL : [http://www.hama-med.ac.jp/uni\\_introduction\\_journal\\_newsletter.html](http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_journal_newsletter.html)

## 国立大学法人 浜松医科大学

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号 TEL.053-435-2111(代表)

<http://www.hama-med.ac.jp/>